

半田市若者市民協働意識醸成事業

「^{がっ}学！コラボ 2024」

事業実施報告書

目次

1. 若者市民協働意識醸成事業	P 2
2. 「学！コラボ2024」とは	P 3
・開催概要、参加NPOの概要	P 4
・協賛企業	P 5
・開催実績	P 6
3. 参加NPO協賛金活用状況	P11
4. 「学！コラボ2024」フィールドワーク	P15
5. アンケート	P19

若者市民協働意識醸成事業

【目 的】

次代を担う若い世代(大学生)を対象に、市民活動の実態や活動支援の方法を理解してもらい、市民協働や社会貢献活動への参加につながるよう、協働意識の醸成を図ることを目的としています。

「学！コラボ2024」とは

参加NPOの活動が若い世代（大学生）にも「伝わる」「共感を得る」ためにプレゼン能力向上研修を受け、半田市内の大学でプレゼンテーションを行いました。

それを聞いた大学生が「共感した。応援したい。」と考えたNPOに投票し、その得票数に応じて協賛団体から協賛金が贈呈されたほか、NPOと大学生との意見交換を行いました。

【学！コラボ2024のしくみ】

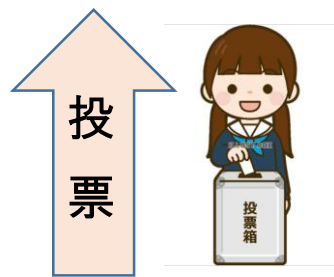


公募選考されたNPO団体
〔活動をわかりやすく伝えて共感を得る〕

プレゼン



投票



開催大学の学生

〔市民活動を理解・共感し応援したい団体に投票〕

協賛金の活用報告

得票数に応じて協賛金贈呈

協賛団体

〔市民活動支援〕

1.「学！コラボ2024」開催概要

(1)スケジュール

場所	開催日時	参加NPO
日本福祉 大学 半田キャン パス	2024年10月1日(火) 《前半》13:35～14:20 《後半》14:20～15:05	・NPO法人インクルーシブダーツクラブ ・知多半島日本ミツバチ愛好会 ・一般社団法人 はんだのたね

(2)内 容

- 《前半》 ・地域課題や取り組んでいるNPOについて講義
・参加NPOによる活動内容のプレゼンテーション
・学生によるグループ討議
・各自で応援したいNPOへオンライン投票
（得票順位に応じて協賛金額を決定）
- 《後半》 ・結果発表と協賛団体の紹介
・協賛団体からNPOに協賛金贈呈
・NPOからお礼のことば
・協賛企業からNPOと大学生に対することば
・学生代表による選定理由発表
・学生と投票先NPOとの意見交換

2. 参加NPOの概要

NPO名	主な活動内容
NPO法人インクルーシブ ダーツクラブ	体験会などのダーツイベント、さまざまな団体、学童、施設等と連携したレクリエーション事業
知多半島 日本ミツバチ愛好会	在来種日本ミツバチの保護と増殖を通じて、里地と里山の利用や保全の取り組み
一般社団法人 はんだのたね	地域の魅力、活力を向上のためのまちづくり事業 / まちづくりコンサルティング / まちづくり人材の育成 / コミュニティデザイン / ワークショップデザインとファシリテーション / セミナー・イベントの企画等

協賛企業ご紹介

有限会社はなふく（半田市新宮町）

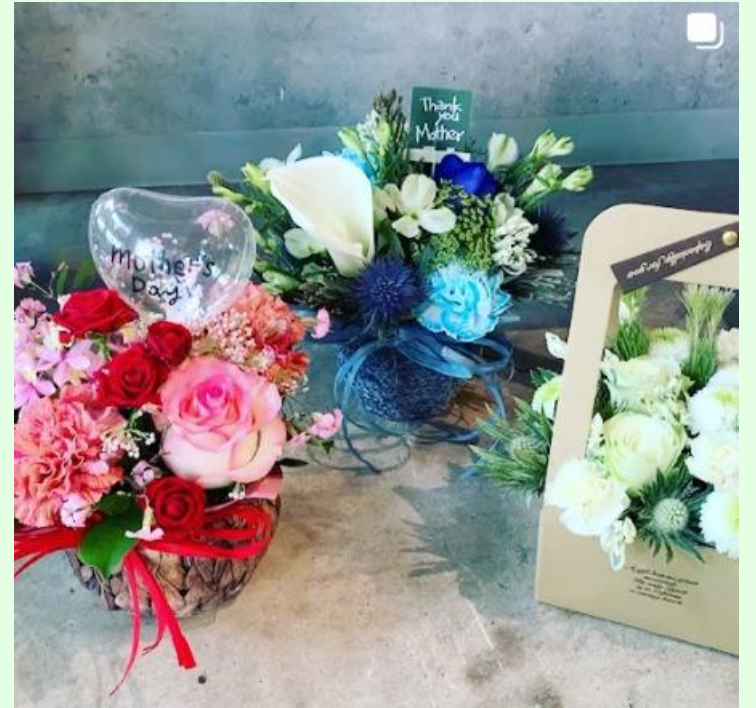
『笑顔をつなぐ花贈り』

人生には花がつきものです。出産・誕生日・入学・卒業・結婚、そして最後のお別れ。

人生の節目に、HANAFUKUの花を贈られた相手に感動を与えたい。

『笑顔をつなぐ花贈り』はそういうメッセージです。

冠婚葬祭業務を中心としたあらゆる花贈りシーンに対応しお花の持っている魅力を多くの人に伝えていきます。



株式会社アグメント（阿久比町）

株式会社アグメントは、人・街・自然の次代への快適な環境作りを守り育てるため、「人と環境を大切に」を企業テーマに掲げ、技術の改善、ノウハウの蓄積につとめて、水質保全、廃棄物処理、省資源といった社会のニーズ、お客様のニーズに迅速に対応し、地域の循環型社会の構築に貢献していきます。



株式会社旭モータース（半田市旭町）

お客様と私たちの間にはいつでも「車」があります。

お預かりするのも「車」ですが、私たちは「心」をお預かりしているつもりです。

お客様の命を乗せるその存在が、いつでも安全安心な相棒として信頼できるように。

お客様のお顔を思い浮かべながら、心を込めて、点検、修理、メンテナンスなどを行っています。

また、従業員同士もお互いを輝かせられるように。

この地域でオンリーワンの存在であると感じていただけるよう、愛をもって事業に取り組んでいきます。



3. 開催実績

(1)参加NPO募集

- 募集説明会開催
日時：6月5日（水）①15:00～16:00 ②18:30～19:30
場所：半田市市民交流センター



(2)NPO選考委員会開催

- 日時：7月10日（水）15：00～16：30
場所：半田市市民交流センター
結果：3団体選出（応募8団体）
選定の主な理由：他団体や関係機関と連携・協働して活動に取り組んでいる他

(3)NPOプレゼンテーション研修

公募で選定されたNPO3団体に、若者（大学生）に対して、より効果的なプレゼンテーションを実施し、伝える力の向上により、資金調達の向上にもつながるよう研修を受けました。

①全体研修：8月21日（水）14：00～16：00 オンライン(zoom)

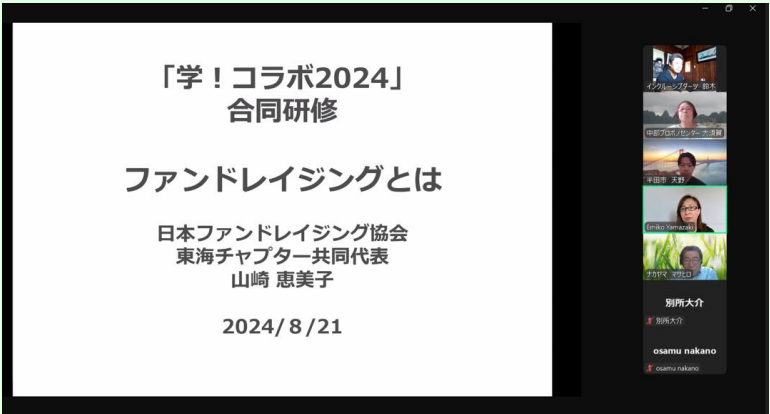
	内容	講師
1	ファンドレイジングとは 事例紹介、自団体の整理	山崎 恵美子氏 (日本ファンドレイジング協会東海チャプター)
2	共感するプレゼンテーション 「伝える」から「伝わる」資料づくり	別所 大介氏 (NPO法人中部プロボノセンター)

②個別研修：9月11日（水）14：00～17：00 半田市市民交流センター

	時間	NPO名
1	14:00～15:00	知多半島日本ミツバチ愛好会
2	15:00～16:00	NPO法人 インクルーシブダーツクラブ
3	16:00～17:00	一般社団法人 はんだのたね

個別研修は1団体ごとに、全体研修でのプレゼンテーション資料作成のレクチャーに従い、それぞれが作成した資料を基に行われました。プレゼンテーションを実践しながら、全体の構成や言葉の選び方など、大学生により伝わるプレゼンテーションとするための研修を受けました。

①全体研修（オンライン）



②個別研修



(4)「学！コラボ2024」開催

場 所：日本福祉大学 半田キャンパス(104教室)

参加者：健康科学部福祉工学科 2年生、3年生、4年生 28名

日時：2024年10月1日(火) 13:35～15:05 [90分]

【前半：13:35～14:20】

- ◇ 地域課題や取り組んでいるNPOについて講義
- ◇ 参加NPOによる活動内容のプレゼンテーション
- ◇ 小グループによる意見交換
- ◇ 各自で共感し、応援したいNPOにオンライン投票

NPOや社会貢献の両輪について、NPO法人中部プロボノセンターの大須賀事務局長による基礎講義が行われた後、NPO3団体からプレゼンテーションが実施されました。

その後小グループで意見交換をしました。
最後に個人が応援したい団体を決め、その場でオンライン投票しました。

基礎講義（NPO、社会貢献について）



①学生間でグループ討議



② オンライン投票

投票 ProJa 特定非営利活動法人 中部プロボノセンター

■ 配布したメモ用紙にあるQRコードを読み取ってください

自分が共感し、支援したいNPOを選んでください

なぜそう思ったのか理由を書いてください

投票締切は14:20 です



参加NPOプレゼン

NPO法人インクルーシブダーツクラブ（鈴木 和則氏）



人とのつながりと居場所

☆「ダーツはコミュニケーションツール」
ダーツは誰でも、子ども、学生、社会人シニア、障がいのある人、みんな一緒に楽しむことができます。
同じダーツを好きな仲間・世代や性別、障がいを越え、人と人をつなぐコミュニケーションツールでもあります

☆人とのつながりは居場所にもつながる
いろいろな違いがあっても同じダーツを好きな仲間には変わらない。
そんなつながりの居場所もいいんじゃないかなと思ってます。

知多半島日本ミツバチ愛好会（中野 修氏）



里地里山と日本ミツバチを守り育てる

☆世界の食料作物生産の75%は花粉交配者のおかげです

- ◇ミツバチが絶滅したら、4年後に人類は滅びる（アインシュタイン）
- ◇飼育にはリスクが伴います。病虫害、農薬害、蜜源植物の不足など。それらに対応しています
- ◇一匹の働きバチが集める蜜はほんのわずかで貴重です。一生で集める量はスプーン一杯

☆里地里山は、ミツバチの「ゆりかご」です

- ◇人の手で守られてきた身近な自然を守ります。生態系「場」を守ります
- ◇飼育場周辺の不法投棄物の回収もします
- ◇はちみつの利用方法についても検討しています。ハチミツ料理のレシピづくり

一般社団法人はんだのたね（池脇 啓太氏）



半田市中心市街地のまちづくり

☆半田市は中心市街地活性化に本気

- ・半田市創造・連携・実践センターを開設
- ・市民/事業者/学生などの交流、ネットワークづくり
- ・起業・創業の促進

☆ワークショップから「コトコトラボ」誕生

- ・半田市創造・連携・実践センターデザインを考える
- ・市民のワークショップ開催
- ・センターは、市民の関わりシロがたっぷりある。

☆大学生の活動が活性化につながる可能性

- ・知多半田周辺で飲みながら若者に投げ銭ができる仕組み
- ・若者の頑張りを大人が応援する文化をつくりたい

【後半：14:20～15:05】

- ◇ 投票結果報告（投票数、協賛金）
- ◇ 協賛金贈呈（NPO3団体：目録贈呈、記念撮影）
- ◇ NPOからお礼のことば
- ◇ 協賛企業からのメッセージ
- ◇ 学生による選定理由の発表（代表）
- ◇ 学生と投票先NPOとの意見交換

《協賛3企業よりNPOに目録贈呈》

一般社団法人はんだのたねと
協賛3企業



知多半島日本ミツバチ愛好会と
協賛3企業



NPO法人インクルーシブダーツクラブと
協賛3企業



投票した理由を発表する学生



投票したNPOに質問したり、補足説明を受けたり意見交換する学生たち



投票結果

団体名	人数(人)	協賛金(円)
一般社団法人はんだのたね	12	50,000
知多半島日本ミツバチ愛好会	9	30,000
NPO法人インクルーシブダーツクラブ	7	10,000
合計	28	90,000

日本福祉大学学生（選んだ理由）

団体名	理由	学年
一般社団法人はんだのたね	大人が金銭面などで若者を支援するシステムや、街の人たちを積極的に取り込んで一から街を自分たちで作っていくという考えに魅力を感じた。	3年以上
	若者を支援するという部分に共感した	2年
	半田市の活性化に向けての活動がいいと考えた	2年
	一番身近に感じ、建物にも興味を持ったから	2年
	興味がある内容だった	2年
	みんなでデザインを決めるのに魅力を感じた	2年
	若者に注目されているのがとても惹かれた	2年
	中心市街地活性化やまちづくりの過程を知りたいと思ったし、若者のがんばりを大人が応援するという取り組みが良いと思ったから。	2年
	関わりしろの話を聞いて、いいなと思いました。	2年
	今自分が住む地域をより暮らしやすい環境にすることに対して身近に感じた。	2年
	若者の頑張りを大人が応援してくれるシステムが素晴らしいと感じた。	3年以上
	半田駅の辺にあんまり何もないから、こういう建物があれば、若者でも大人でも楽しそう、行きたいと思われる。中心市街地が元気になるし、地元が愛されることになる。	2年
知多半島日本ミツバチ愛好会	はんだのたねの継続して関わることができる余白もすごくよかったが、ミツバチ愛好会の話でミツバチの重要性や、世界に広く発信できそうな活動だと思いますミツバチを選びました	2年
	ミツバチの影響が思っていた以上にあり、世界的な問題への解決にも繋がると思ったから。(SDGsなど)生態系を守っていこうという社会の動きがあるため、応援したいと思った。	2年
	機会がないと知ることができないため、さらに深めたいと思ったから。	2年
	普段関わることのないからこそ惹かれました	2年
	ミツバチによって与える影響が蜂蜜だけだと思っていたけど、ミツバチがいないと生活できないほどの影響を持っていることを知り興味深いと感じました。里地里山の保全活動についても興味を持ちました。	2年
	里山保全に興味があったから。	2年
	蜜蝋作りやリップクリームの作成、蜂蜜の料理教室に興味を持ったから	3年以上
	人が生きる基盤となる自然の保護が最も大切だと考えたから。	2年
NPO法人インターナショナルダーツクラブ	課題解決に効果的な活動で、その持続可能性も高い。	2年
	楽しそうだから	2年
	万人ができるから	3年以上
	年齢や性別で壁がある中でコミュニケーションの切り口としていいと思ったから	2年
	人との繋がりに重きを置いているのが聞いてて分かったし、なにより多様な人の居場所という存在に惹かれたから	3年以上
	ダーツを通して幅広い世代の交流の仕方に具体的で楽しそうと思ったから	2年
	ダーツで色々な人と交流できるのがとても楽しいそうだった。	2年
	色んな人とダーツを通して知り合えるから	2年

参加NPO（感想）

- ◇非常に貴重な機会をありがとうございました
- ◇11月15日にオープンしたココロリンは、建設から多用な人が関わって意見を出し合ってきた結果です。そしてオープン後に関しても「関わりシロ」を大切にしながら、いろんな人が育てていける施設にしていきたいと考えています。今回参加いただいた学生にも引き続き関わっていただけると嬉しいです
- ◇伝えることを整理する中で自分の思いも再確認できました

参加NPO協賛金 活用状況

若者市民協働意識醸成事業「学！コラボ2024」協賛金活用状況報告

団体名	一般社団法人はんだのたね
URL	https://handanotane.com
協賛金額	50,000円

活用目的

今回いただいた協賛金5万円は、以下のような活動に幅広く活用する予定です

- ◇地域イベントの開催支援
- ◇コミュニティ活性化活動の促進
- ◇子どもや、起業を目指す方への支援プログラムの実施

活用状況

いただいた協賛金は、以下のような広範な活動に活用させていただいています

- ◇イベントの運営費用(会場費、資料印刷費など)
- ◇広報活動の強化(チラシ作成、SNS広告など)
- ◇各種ワークショップやセミナーの開催費用

様々なイベントやワークショップ、セミナーで、多くの地域の方々に参加していただくことができました



今後の活動に向けたメッセージ(抱負など)

『半歩先行くライフスタイルをデザインする！』

自分たちが実現したい知多半田での暮らしに向けて 余白を作りながら関わる人を増やします

『体験や挑戦の場をつくる！』

新たなチャレンジを応援し、みんなの〇〇したいを応援しあえる環境をつくります

引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます

団体名	知多半島日本ミツバチ愛好会
URL	https://nakano772.wixsite.com/8bunbun
協賛金額	30,000円

活用目的

- ・デジタル糖度計の購入
採蜜後の蜂蜜の糖度の確定、分析と調査、演示「蜜のティースティング」、
「蜂蜜料理の普及」
1採取年月日による糖度の差異
2採取地点による糖度の差異
3周辺環境の糖度に与える影響
4時間の経過や湿度の変化が糖度に与える影響

活用状況



デジタル糖度計

《糖度計を活用して行いたいこと》



「日本ミツバチのハチミツ
酵母ナン試食会」



「ハチ蜜を使った料理レシピ開発」

今後の活動に向けたメッセージ(抱負など)

半田市を始めとする知多半島では自然保全、保護の市民団体は多くありません。日本在来種の日本ミツバチの繁殖と保護のためには、種の保護、保全だけでなく、環境や生態を含めてまるごと守る必要があります。このことについて「学コラボ事業」を通じて少しでも貢献することができたら幸いです。

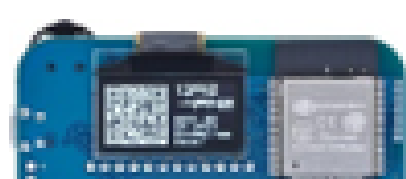
若者市民協働意識醸成事業「学！コラボ2024」協賛金活用状況報告

団体名	NPO法人インクルーシブダーツクラブ
URL	https://linktr.ee/incldarts501
協賛金額	10,000円

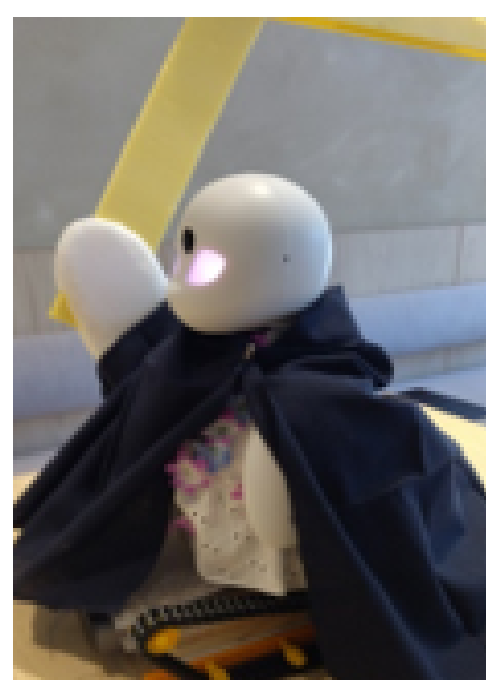
活用目的

- ・障がいなどで外出困難な方にも、分身ロボットOriHimeからダーツを楽しんでもらえるよう開発中のOriHime-DARTSシステム作成費用の一部に使わせていただきました。
- ・投げるのが難しい人に床置きダーツをしてもらっており、この改良に使わせていただきました。

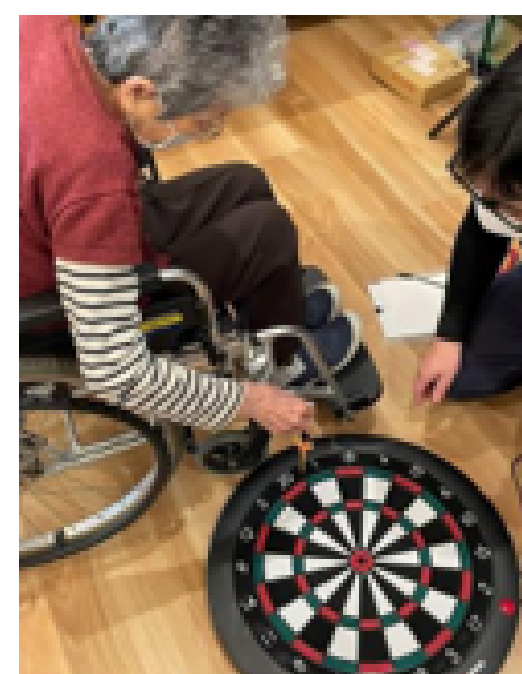
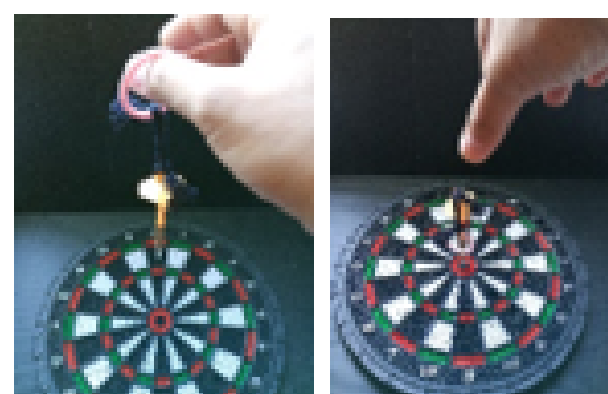
活用状況



【制御用のマイコン、サーボモータ、バッテリー】



【試作機】



【今回のフィールドワークで
学生さんにいただいたアイデアから】

- ・腕、手指の動かしづらい方には、床に置いた的に矢を落としてもらっている
- ・矢をつまむやり方から、矢にリングを付けリングに指をかけるよう改良した

今後の活動に向けたメッセージ(抱負など)

皆様からいただいた応援は、今回寝たきりや外出困難な方の趣味や就労の選択肢を増やせる可能性につなげさせていただきました。
フィールドワークでいただいたアイデアで、これまで難しかった人にも楽しんでもらえるようになりました。
誰もが一緒に楽しめるダーツ。自分にはできないとあきらめる人のないように、さまざまな人が一緒にいられる居場所になれるよう活動を続けていきます。

若者市民協働意識醸成事業
「^{がっ}学！コラボ2024」
フィールドワーク

「学！コラボ2024」 フィールドワークとは

若者(大学生)が身近な地域で課題解決のため活動している市民活動団体を知り、理解し、共感することで、若い世代の協働意識や社会参画・貢献意識の醸成を図る「学！コラボ2024」を開催しました。

その授業で学んだ学生が、自分が投票した団体の活動を実際に体験することでより一層理解を深めてもらうねらいでフィールドワークを実施しました。

1.若者市民協働意識醸成事業(学！コラボ2024)フィールドワーク開催概要

- (1) 開催日時：2024年11月12日(火) 13時35分～15時05分
- (2) 開催場所：日本福祉大学半田キャンパス
- (3) 参加学生：日本福祉大学半田キャンパス 健康科学部福祉工学科 27名

＊詳細は下表

受入NPO	体験内容	大学生 人数	団体 人数
一般社団法人 はんだのたね	3人のチームにわかれ、若者が応援される仕組みを考え、そのPR動画の作成と発表までを行った。	11名	1名
知多半島 日本ミツバチ愛好会	日本ミツバチの生態や保護の重要性について、実際の巣箱や防具を見て触ったり、蜜ろうやはちみつの活用法について体感したり、ミツバチの飛行音クイズなどを通じて、楽しみながら理解を深めた。	9名	4名
NPO法人 インクルーシブダーツ クラブ	団体が普段行っている福祉施設などでの活動の模擬体験として、目隠しや座った状態からのダーツなどを体験した。	7名	1名
	計	27名	6名

2, 体験の様子

一般社団法人はんだのたね

学生感想

まずは社会貢献活動を知り、自分にできそうなことからしてみたいと感じた。
また、自分の住む地域を知り暮らしやすくするような活動に協力したいと感じた

- ・地域活動の難しさを感じるとともに、応援を得るためには「還元される仕組み」が必要だと再認識する声が上がった
- ・地域の活気を伝える活動への共感の声もあり、学生と地域のつながりを考える機会となった



【ワークショップで意見を出し合う】

知多半島日本ミツバチ愛好会

学生感想

森林破壊などの社会問題について気になったので、自然を活かす活動をしたと思った

- ・日本ミツバチの生態や保護の重要性について、実際の巣箱や防具を見て触ったり、蜜ろうやはちみつの活用法について体感したり、ミツバチの飛行音クイズなどを通じて、楽しみながら理解を深めた
- ・はちみつの発酵による甘さの違いへの驚きや、日本ミツバチ飼育の意義についての気づきがあった
- ・ミツバチを通じた自然保全や社会問題への関心が高まり、自然を生かす活動に参加したいとの意欲も示された



【蜜ろうクリームの香りを体験】

NPO法人インクルーシブダーツクラブ

学生感想

居場所作りという点での引きこもりがちな方とのコミュニケーションをしてみたいと思った

- ・団体が普段行っている福祉施設などでの活動の模擬体験として、目隠しや座った状態からのダーツなどを体験した
- ・支援の在り方や本人の意思を尊重する重要性を考える機会にもなった。また、支援を必要とする方々の悩みや様々な支援方法を学ぶ機会となり、誰でも楽しめる活動の意義を再認識した

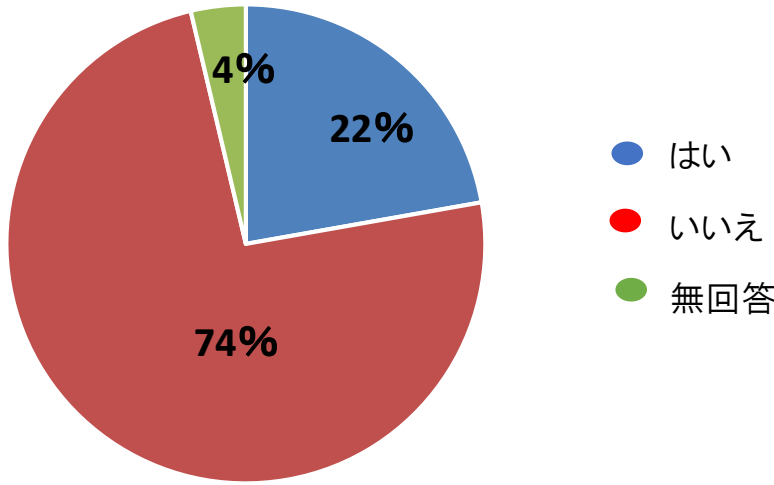


【座った状態でのダーツ体験】

若者市民協働意識醸成事業
「^{がっ}学！コラボ2024」
アンケート

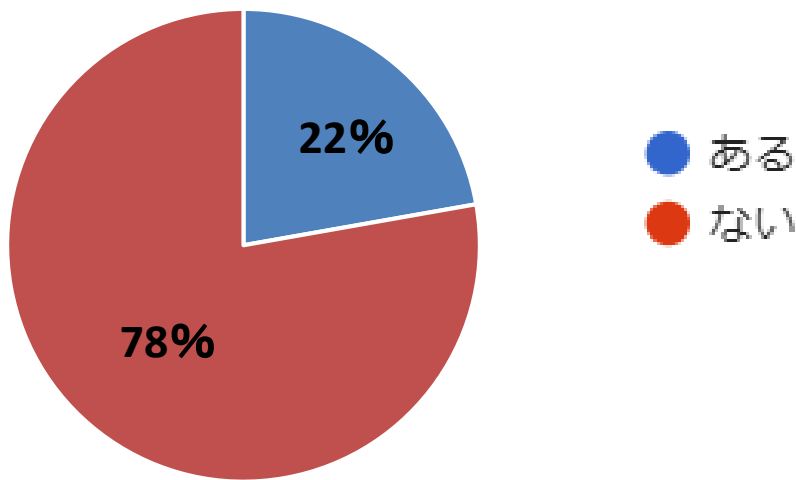
1. 地域環境や社会課題に取り組んでいる市民活動が、身近にあることは知っていましたか？

はい	6名
いいえ	20名
無回答	1名



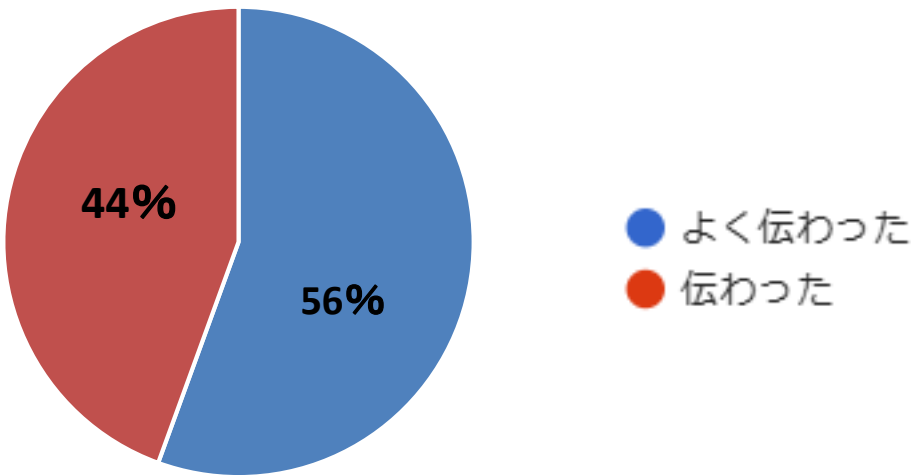
2. これまでに、地域の草刈り、ごみ拾いなどの地域活動や募金などの社会貢献活動に参加したことはありますか？

ある	6名
ない	21名



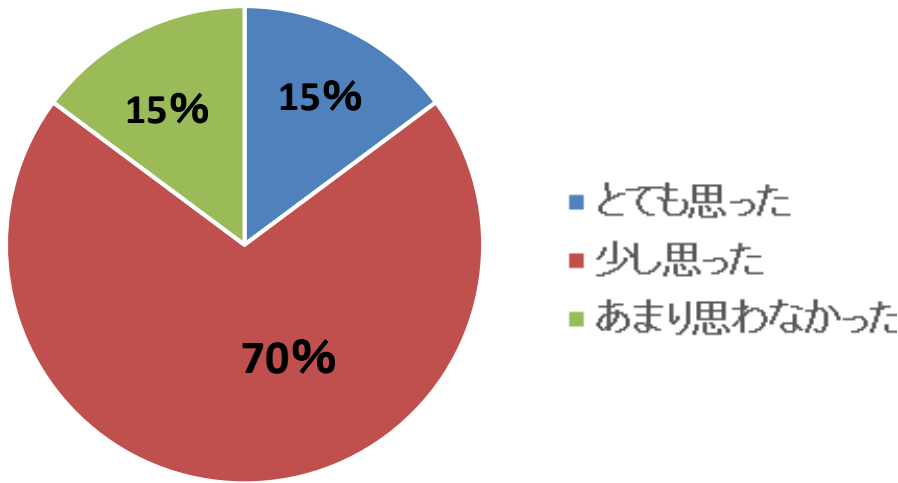
具体的な社会貢献活動
・赤い羽根、緑の羽根募金
・プルトップを集めて車椅子にして寄付
・子供中心で作るイベントに、小学生の頃参加
・お祭りの手伝い
・自治体の公園のごみ拾い
・阿久比町のごみゼロ運動

3. 今回の市民団体のプレゼンで、活動の内容が伝わってきましたか？



よく伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	伝わらなかった
15名	12名	0	0

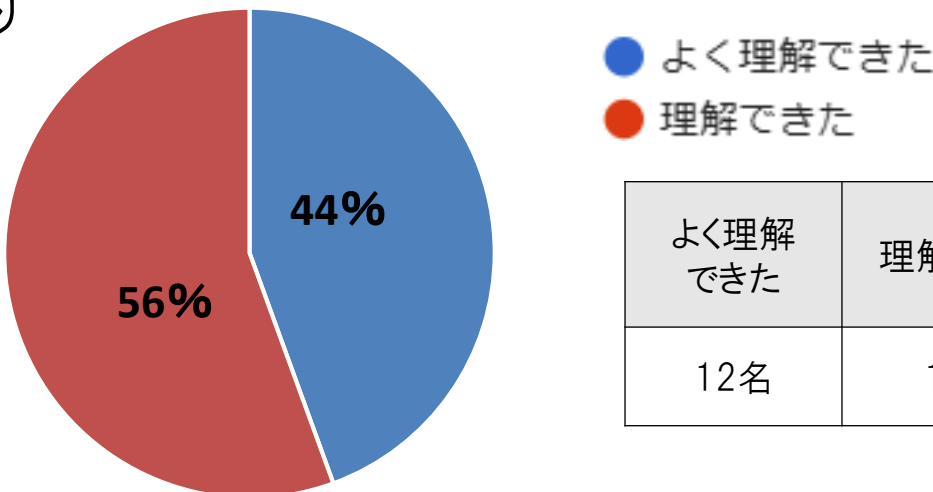
4. 自分も何らかの形で地域貢献や社会貢献活動へのActionを起こしてみたいと思いましたか？



とても思った	少し思った	あまり思わなかった	全く思わなかった
4名	19名	4名	0名

〔今考えているactionは？〕
・募金
・いいなと思った活動に参加したい

5. 社会貢献や協働(住みよいまちづくりのための活動を行う様々な団体や組織が、一つの目標に向かって、それぞれの得意分野を生かして、力を合わせて活動すること)について、理解が深まりましたか？

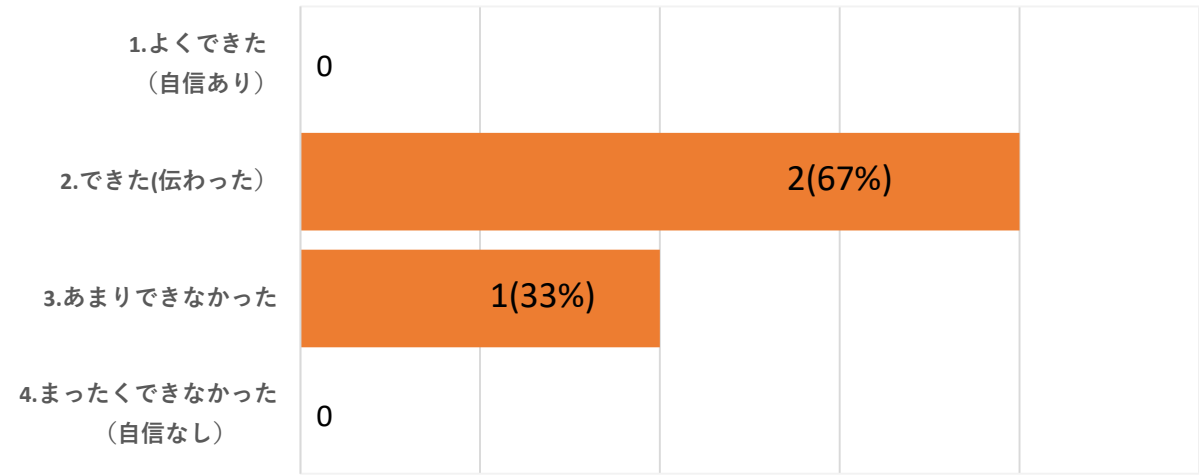


よく理解できた	理解できた	まだよくわからな	理解できない
12名	15名	0	0

6. 社会貢献や協働について、ご意見・ご感想をご記入ください。

◇	誰かが社会貢献してくれているおかげで今の生活があるのでは無いかと考えた
◇	高齢者と子供を繋げる場所やイベントが必要と感じた
◇	今まで地域で行っている活動などはなんとなくは知っていましたが、自分は何も行動を起こさなかったもので、また、機会があれば自分から行動しようと思いました
◇	町おこしや自然、スポーツなど多様な要素を絡めた社会貢献が実施されていることを理解した
◇	そういう活動方式もあるのだと、参考になった
◇	地域活動は、やっててみると意外と楽しい
◇	NPOの方々は私たちが考えてるよりもずっと街や環境、繁栄について考えてくださっているということを知りました
◇	地域の活動を知ることで地域を好きになれた気がする
◇	知れてよかった
◇	話が面白かった
◇	どれも興味深い話で面白かったです。次回の体験が楽しみです。ありがとうございました
◇	今回の講義で、団体ごとに様々な活動や様々な形態があることを知った。自分でも参加できそうな団体もあったので、とても興味が沸いた
◇	団体がそれぞれまったく違う目的のために頑張っていたので、その熱量が伝わりました
◇	社会貢献の活動をしている団体を知れて良かったです。それぞれの取り組みについてもっと知りたいと思った
◇	身近なところで色々な活動あることを知ることが出来た

1. 大学生に向け、活動内容を思いのとおりにプレゼンすることはできましたか？



できた (伝わった)	2団体
あまりできなかった	1団体

◆なぜそう思いましたか？

・28名の学生から1/3の9票を獲得したことは、一定程度評価を得たものと思われるが同時に反省もある
・資料を読むことにいっぱいいっぱいになってしまい余裕がなかったから一定の評価はいただいたと考えているものの、やや詰め込みすぎの感もあり、早口になってしまった

2. 短い時間でしたが、学生との意見交換では、有意義な時間が過ごせましたか？印象に残っていることや気づいたことをご記入ください

・学生さんから「ミツバチの影響が思っていた以上にあり、世界的な問題への解決にも繋がると思ったから(SDGsなど)生態系を守っていこうという社会の動きがあるため、応援したいと思った」との意見に感銘を受けた。また、私たちの会を評価していただいた学生さんに女性が圧倒的多数であったことも印象に残った
・ダーツに世代や障がいの壁はない、さまざまな人の居場所にとってもまだ半信半疑のような。それでも共感し興味を持ってもらえたことは嬉しくありがたく、今後の活動も応援してもらえたらと思いました
・11月12日のフィールドワークでは、学生に「学生料金が安く抑えられるための、支援のPR動画の作成」を課題として提出した。短い時間の中で、難易度の高い課題だったが、学生が検討して(制作した)内容を見ると、お金の流れと人の流れ、支援の流れをそれぞれに検討していて、多様な協働・連携のあり方が見えてきた

3. 今回、研修の中でファンドレイジング(資金調達)研修について学びましたが、今後の活動にどのように生かせそうですか？取り組みたいと考えている資金調達方法がありますか？

・資金調達は、良い面ばかりでなく、用途により活動を制限される場合もあります。特に、自治体の委託金などが収入の多くを占める団体などは、自治体の意向に左右されます。資金調達は、紐付きでないことが団体の自由度の確保のためにも大事と考えます
・委託金や事業収入に組み込み、活動を継続していくことに生かしたいと思います
・まちづくりの中で、いろんな人に応援してもらいながら、支援が集まる仕組みを実践していきたいです

4. この事業全体(プレゼン研修や授業、大学生との意見交換等)を通して気づいた点や今後の活動にどのように活用できそうかなど、ご記入ください

・プレゼン研修で感じたことは、プレゼンする側と、プレゼンを受ける側の格差の理解です。プレゼン側の話したい内容が、必ずしも一般の視聴者である受ける側が、聴きたいことや、興味関心がある内容と一致しないことです。過去に、電通の社員から市民団体の広報活動の研修を受けた際も、同じようなことを言われました。「一般に広報側は、内容に多くを詰め込みすぎる。もっと平易で分かりやすい内容で取捨選択、精選する必要がある」この後、市内の高校から『「人と自然の共生」というテーマで、高校生対象の動画コンテストに参加するので、本会の活動についてお話を伺いたい』という依頼を受けました。早速、このプレゼンの経験が役立ちました。本会は、今後は小中高生など若い人への、自然保護やSDGsの教育活動に組み込みたいと思っています。今回の事業は有意義かつ、たいへん参考になりました
・活動を人に伝える機会は増えているので、共感してもらえる伝え方をしていきたいです
・学生に引き続き関わってもらえるような仕組みづくりなどがあると良いと思いました。往々にして学生は「授業だから」で終わりがちなので

半田市若者市民協働意識醸成事業

がっ
「学！コラボ2024」 事業実施報告書

2025年2月

主 催：半田市企画部市民協働課

受託団体：特定非営利活動法人中部プロボノセンター